

5月の星空

4月の関東地方はあまり晴天が続かず星空の観望には適さなかった様ですがどうでしたか？

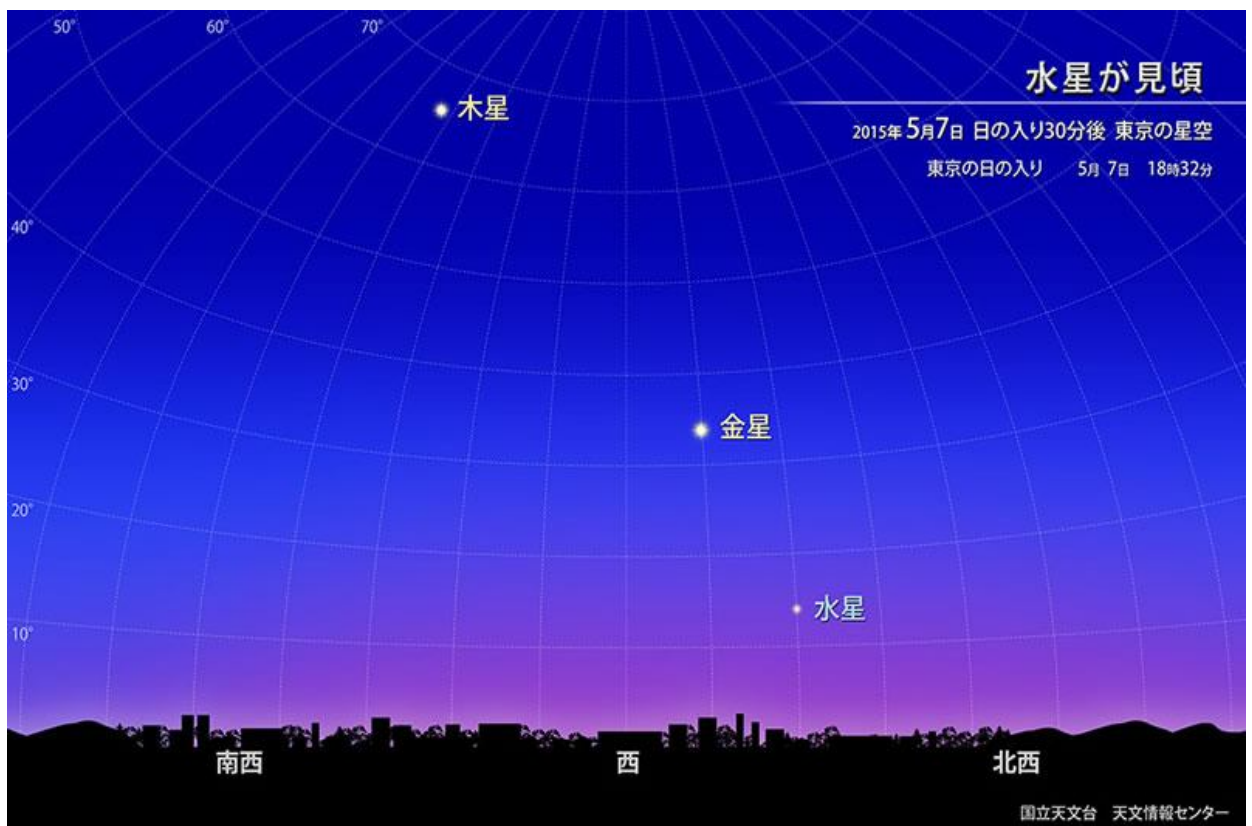
5月に入れば例年、からっとした晴天が続くのでその分観望には適した月になります。

観望の条件として比較的良い惑星は水星・金星・木星・土星の4惑星になります。

水星は上旬から中旬に掛けて東方最大離角を迎え日の入り後の西空に -0.3 等級から -2.6 等級の明るさで輝く事でしょう、又金星も西の空に -4 等級程の明るさで光り輝いている事でしょう（この金星が日の入り後最初に見える星、一番星になります）。

この金星を目印にすれば比較的簡単に水星を見つける事が出来るでしょう、また2番星になりそうなのが日の入り後南の空高くに見える木星、これらの惑星が夕焼け空から暗くなるまでの星空の主役になっています。

（因みに地球より内側を回っている水星と金星には月と同じ様に満ち欠けが見えます、見掛け上太陽に近づけば近づくほど三日月の形に見えて来ます、但し望遠鏡等で見ないと視半径が小さいので見る事が出来ません、しかし金星の三日月の時には木星より大きく見えますので、挑戦してみてください。（残念ながら私もいまだ見る機会がありませんが）

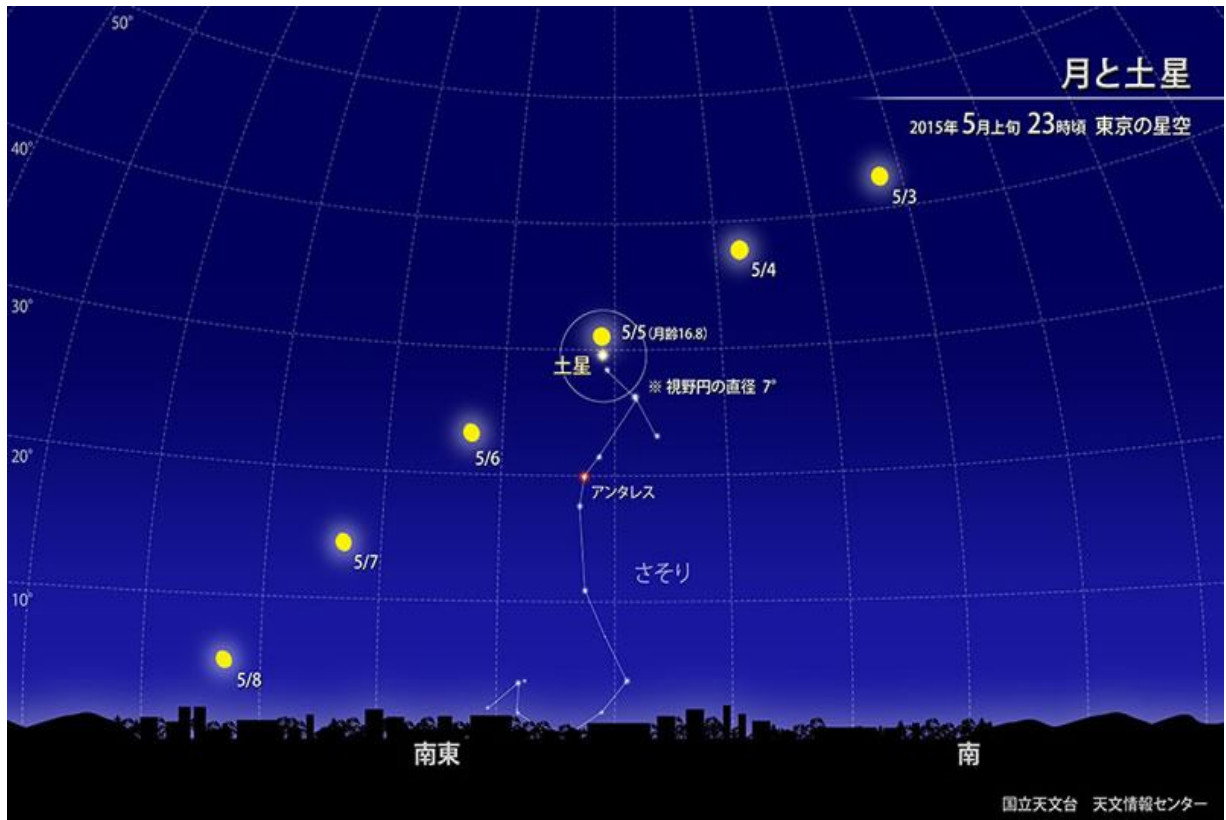


5月の下旬頃には月と金星・木星が夕方同じ方角に見えて来ます、毎日形を変えながら位

置を変えて見える月が金星・木星の間を動いている姿を楽しんでください。



日が沈み暗くなった東の空を見ると土星が見えてきます、5月5日から6日に掛けて月の大きさの倍くらいの近さまで近付きます。是非それ程近付いている月と土星をみてください。また天体望遠鏡でも覗いてみてください、方やクレーターが見え方や土星の環が見え宙の不思議さが体感出来る事でしょう。

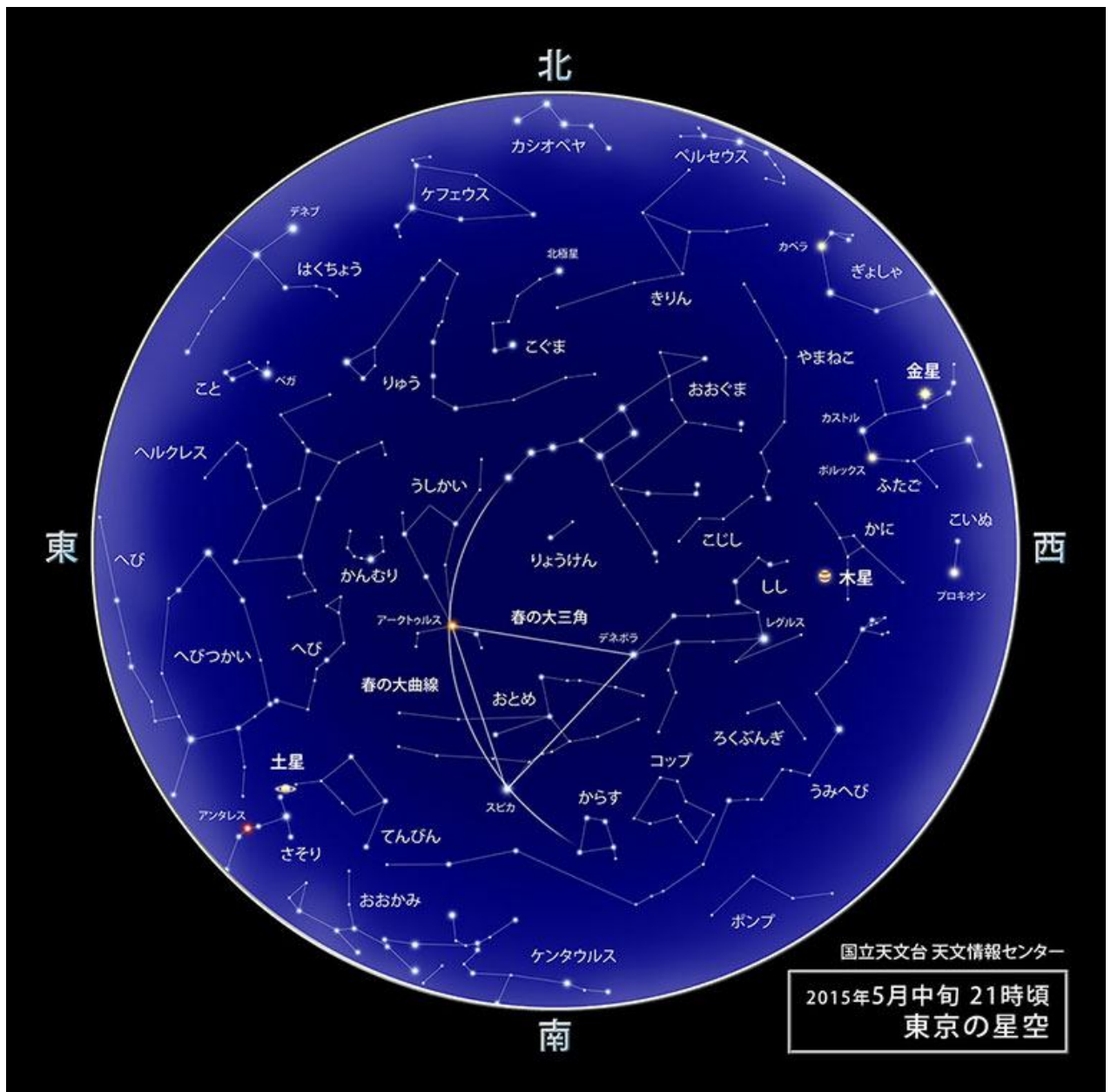


この時期は夜空を眺めていてもあまり寒さを感じなくなり気楽に星空の探訪が出来る様になります。

大雑把ですが春の星座を観る事にしましょう、まず北の空に目を向けると、誰でもが一目で分かる（北斗七星）水を汲むのに使うひしゃくの形をしているので覚えやすいですね、この星座を手がかりに春の星座を探して行きましょう、まずひしゃくの柄の所のカーブにそってそのまま伸ばして行くと黄色に光っている1等星が有りますこれが牛飼い座の α 星アークツールス、この牛飼い座は大熊座を追い回している牛飼いと言う説が有ります、（大熊座とは北斗七星が属している星座です）、そのカーブをさらに伸ばして行くと今度はおとめ座の白く輝いている1等星スピカに出会います。おとめ座は正義と天文の女神[アストライアー](#)で、1人地上に残り、人間に正義を教えていたが、彼女も人間に失望し、自ら天に昇っておとめ座となり、持っている[天秤](#)は[てんびん座](#)となった。（この神話を基にして正義と公正のシンボルになり弁護士バッヂ等には天秤の彫刻が彫って有ります）裁判所等にはこの彫像が置かれています。

この北斗七星のカーブからアークツールスそしてスピカをたどってくる曲線を春の大曲線といいます、このアークツールスとスピカの西にあるしし座の2等星デネボラを結ぶ線が春の大三角と呼ばれています。

ここまでは比較的追ってこれますのでこの後は星図と見比べて星座探しをしてみてください。



五月には前回話をした I S S 国際宇宙ステーションに日本人宇宙飛行士油井さんが搭乗します。是非日本上空を通過する時には地上から眺めてみてください。

<http://kibo.tksc.jaxa.jp/>こちらで何日の何時ごろ観測可能かどうかをチェック出来ます。